

令和2年8月教育委員会議

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について

資料 3

(調査・研究報告書)

教科〔国語〕種目〔国語〕

令和 3 年度から使用する中学校用教科用図書 の 調査 ・ 研究 報告 書

1 教 科 [国 語] 種 目 [国 語]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館や美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があることや、全ての小・中学校で朝読書の取組を実施するとともに、2中学校区に1人学校司書を配置し、学校図書館の環境整備を実施していることなど、読書活動の推進に力を入れている地域でもある。
- 平成 3 1 年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、どの領域も概ね基礎的・基本的な学力は定着しているが、自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識できていても、複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出すことや、相手意識を持って、分かりやすく相手に伝えることに課題が見られる。また、多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着にも課題が見られる。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方 ② 伝統と言語文化に関する内容の取り扱い方 ③ 漢字や語句の取り扱い方
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 学習を広げたり、補足したりする内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方
＜言語活動の充実＞	⑩ 社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫

令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書

別添1-2

1 教科〔国語〕種目〔国語〕
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	発行者			
	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「読書案内」として、教材と関連する本を1冊紹介している。また、「読書への招待」の後に、教材と関連する本を12冊紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「図書館での調べ物」、「ポップ作り」 第2学年：「ピブリオバトル」、「一枚レポートにまとめる」 第3学年：「読書会」、「将来の目標や計画を立てる」 ○ 各学年、3人ずつ、異なる職業の人による「私のおすすめの本」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書への招待」に、作品を3つ掲載している。また、巻末の「資料編」に、作品を2つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭に既習事項を掲載するとともに、「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「言葉とメディア」を配置し、教材の後の「てびき」に、学習課題を示している。 ○ 各学年、巻末の「資料編」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 第1学年：「著作権と引用」 第2学年：「著作権について考える」 第3学年：「情報の信頼性を確かめる」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「私の本棚」として、教材と関連する本を3冊紹介している。また、「読書の広場」に、「小さな図書館」として、6のテーマで、47冊の本を紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「ブッククラブ」 第2学年：「ピブリオバトル」 第3学年：「ブックトーク」 ○ 各学年、1人ずつ、作家の「私の読書体験」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、巻末の「読書の広場」に、作品を4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」を配置し、教材の前に、学習課題を示している。 ○ 各学年、巻末の「資料編」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 全学年共通：「情報を活用する」、「情報探しの方法」、「引用と著作権」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元ごとに、「広がる本の世界」として、教材と関連する本を10冊紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「本の帯やポップ作り」 第2学年：「レポート作成」 第3学年：「ピブリオバトル」、「読書記録」 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書への招待」に、作品を2つ掲載している。また、巻末の「言葉の自習室」に、作品を4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「メディアと表現」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示している。 ○ 各学年、本編の「メディアと表現」で、「情報の整理」の参考となる内容を扱っている。 第1学年：「メディアの編集について」、「広告の情報について」 第2学年：「SNSとのつき合い方について」 第3学年：「メディア・リテラシーについて」、「ニュースでの情報編集について」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「広がる読書」として、関連する本を2冊紹介している。また、各学年、テーマ別に50冊の本を紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「ポップ作り」、「感想の共有」、「読書記録」 第2学年：「本の紹介合戦」、「読書ポスター」、「読みたい本リスト」 第3学年：「ブックトーク」、「読書会」、「読書生活のデザイン」 ○ 各学年、1人ずつ、異なる職業の人による「読書コラム」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書」に、作品を3～5つ掲載している。また、巻末の「学習を広げる」に、作品を2～4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」、「情報社会を生かす」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示している。また、巻末に、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」の一覧を掲載している。 ○ 各学年、本編の「情報社会を生かす」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 第1学年：「情報を集めよう」、「情報を読み取ろう」、「情報を引用しよう」、「著作権について知ろう」 第2学年：「メディアを比べよう」、「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」 第3学年：「実用的な文章を読もう」、「報道文を比較して読もう」

観点	発行者			
	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
視点	<p>○ 各学年、古典単元を設け、物語、随筆、和歌、紀行文、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。</p> <p>○ 第1学年では、古典の導入として、身近な昔話をとくに、古典を学ぶ意味に関する文章を掲載している。</p> <p>○ 第1学年では、中学校3年間で学ぶ古典作品を掲載している。</p> <p>○ 古典教材の後に、「古典コララム」を設け、古文や漢文を読むための知識・技能に関する内容を掲載している。</p> <p>○ 各学年、巻末の「資料編」に、古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。</p> <p>第1学年：古事記、伊勢物語、源氏物語、梁塵秘抄、方丈記、芭蕉・蕪村・一茶の句</p> <p>第2学年：書き手の肖像—清少納言と兼好法師、望郷の詩—杜甫と李白、能・狂言</p> <p>第3学年：恋歌をよむ、「おくのほろ道」の旅、人形浄瑠璃・歌舞伎、[発展] 古典の文法</p> <p>○ 行数を五行ごとに数字で示している。</p> <p>○ 新出漢字は、脚注に抜き出し行教、音訓を示している。</p> <p>○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、行教、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。</p> <p>○ 巻末の「新出漢字一覧」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。</p> <p>○ 教科書で学習する用語については、巻末の「学習用語一覧」に、言葉と該当するページを示している。</p>	<p>○ 各学年、古典単元を設け、物語、随筆、和歌、紀行文、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。</p> <p>○ 第1学年では、古典の導入として、各月の異名(旧暦)に関する文章を掲載している。</p> <p>○ 古典教材の後に、「古文の読み方」、「漢文の読み方」を設け、古文や漢文を読むための知識・技能に関する内容を掲載している。また、第2学年、第3学年では、学習した内容と関連した「コラム」を設けている。</p> <p>○ 各学年、巻末の「読書の広場」、「資料編」に、古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。</p> <p>第1学年：古事記、落語の世界、落語 桃太郎</p> <p>第2学年：那須与一—平家物語より一、歌舞伎の世界、歌舞伎 外部</p> <p>第3学年：近世の短詩—俳句・川柳・狂歌、能・狂言の世界、狂言 柿山伏</p> <p>○ 行数を五行ごとに数字で示している。</p> <p>○ 新出漢字は、脚注に抜き出し行教、本文中の読みを示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。</p> <p>○ 意味や用法など、注意する語句は、脚注に抜き出し、行教、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。また、本文に掲載されている熟語の対義語や類義語は、脚注で言葉を示している。</p> <p>○ 巻末の「〇年生で学ぶ漢字字典」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。</p> <p>○ 教科書で学習する用語については、巻末の「学習用語辞典」に、言葉と意味、該当するページを示している。</p>	<p>○ 各学年、古典単元を設け、物語、随筆、和歌、紀行文、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。</p> <p>○ 第1学年では、古典の導入として、身近な昔話をもとに、古典を学ぶ意味に関する文章を掲載している。</p> <p>○ 古典教材の後に、古文や漢文を読むための知識・技能に関する内容を掲載している。</p> <p>○ 各学年、巻末の「言葉の自習室」に、古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。</p> <p>第1学年：蓬萊の球の枝と偽りの苦心歌—竹取物語、一、伝統芸能へのいざない 落語、小倉百人一首</p> <p>第2学年：扇の的一—平家物語—</p> <p>第3学年：古典文学の名作、[発展] 古典文法活用法、伝統芸能へのいざない 狂言</p> <p>○ 行数を「・」と五行ごとに数字で示している。</p> <p>○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、漢字のみを示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。</p> <p>○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。</p> <p>○ 巻末の「〇年生で学習した漢字」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。</p> <p>○ 教科書で学習する用語については、巻末「学習に必要な用語(索引)」に、言葉と該当する学年及びページを示している。</p>	<p>○ 各学年、古典単元を設け、物語、随筆、和歌、紀行文、漢文など様々なジャンルの古典教材を掲載している。</p> <p>○ 各学年、古典の導入として、最初の単元に「音読を楽しもう」を設けている。</p> <p>○ 第1学年では、「古典の世界」として、中学校3年間の古典教材を時代に沿って示している。</p> <p>○ 古典教材の後に、古文や漢文を読むための知識・技能に関する内容を掲載している。</p> <p>○ 各学年、巻末の「学習を広げる」に、古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。</p> <p>第1学年：百人一首を味わう、言葉としぐさの伝統芸能—古典落語</p> <p>第2学年：古典の世界を広げる 教盛の第一期—「平家物語から」、家の作りやうは—「徒然草から」、古典芸能の世界—「能・狂言」</p> <p>第3学年：古典芸能の世界—歌舞伎・浄瑠璃、古典・近代文学の名作</p> <p>○ 行数を五行ごとに数字で示している。</p> <p>○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、行教、本文中の読みとともすべての音訓を示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。</p> <p>○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。さらに、「漢字に親しもう」で、指定した言葉を使用して文章をつくる課題を設定している。</p> <p>○ 巻末の「〇年生で学習した漢字」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例、慣用句・ことわざなどを示している。</p> <p>○ 教科書で学習する用語については、巻末「[索引] 学習のための用語一覧」に、言葉と該当するページを示している。</p>
② 伝統と言語文化に関する内容の取り扱い方				
③ 漢字や語句の取り扱い方				

		発行者			
		三省堂	教育出版	光村図書出版	
視点		<p>○ 語彙の充実については、教材の後の「学びの道しるべ」に、「語彙を豊かに」を設け、教材に出ている言葉を扱っている。また、巻末の「資料編」に、「語彙の広がり」を設け、テーマ別にさまざまな言葉を掲載している。</p>	<p>○ 語彙の充実については、巻末の「折込」に、「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」を設け、さまざまな言葉を掲載している。</p>	<p>○ 語彙の充実については、巻末の「資料編」に、「語彙を豊かに」を設け、さまざまな言葉を掲載している。</p>	
観点	<p>④ ⑤</p> <p>観点2 主体的に学習に取り組む工夫</p>	<p>○ 各単元の扉に、第1学年は詩、第2学年は短歌、第3学年は俳句を掲載するとともに、それぞれの背景には、作品と関係した写真を掲載し、興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。</p> <p>○ 教材の後の「てびき」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、教材を読む視点である「言葉の力」、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」では、「振り返り」では、教材の中で学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫されている。</p>	<p>○ 各単元の扉に、単元と関連する作品の言葉を大きな字で掲載している。また、「四季のたより」を設け、季節に関連した短歌や俳句を掲載し、興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 巻頭の「言葉の地図」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。</p> <p>○ 教材名のそばに目標、教材の後の「みらしるべ」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」は、目標と対になっており、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。</p>	<p>○ 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下の、「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 巻頭の「この教科書で学習するみなさんへ」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。</p> <p>○ 教材名のそばに目標、教材の後の「学習」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」では、学習した教材や、過去に学習した教材を取り上げ、自分の言葉でまとめ、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習において、表現する際の参考として、「達人からのひと言」を設け、さまざまな業種の人のコメントを掲載している。</p>	<p>○ 語彙の充実については、巻末の「資料編」に、「語彙を豊かに」を設け、さまざまな言葉を掲載している。</p> <p>○ 裏返しに、2ページにわたり、「言葉を楽しむ」として、時、色、季節を表す言葉を掲載している。</p> <p>○ 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下の、「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 巻頭の「この教科書で学習するみなさんへ」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。</p> <p>○ 教材名のそばに目標、教材の後の「学習」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」では、学習した教材や、過去に学習した教材を取り上げ、自分の言葉でまとめ、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習において、表現する際の参考として、「達人からのひと言」を設け、さまざまな業種の人のコメントを掲載している。</p> <p>○ 教材の後に、対話的な学習活動を設け、学習の理解が深まるよう工夫している。また、巻末に「学習の方法」一覧を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。</p> <p>【発問の具体例】</p> <p>○ 第2学年の「走れメロス」では、「対話的な学習」を促すために、「『天を仰いで、悔し泣きに泣き出した。』から『正直な男のままにして死なせてください。』までのメロスの心情の変化を捉えよう。また、その部分の語り方の特徴について、気づいたことを話し合おう」という発問と、「メロスはどのような人物か。メロスの性格を表す漢字二つの言葉を考え、理由とともに交流しよう。』という発問を示している。</p>
		<p>○ 教材の後に、対話的な学習活動を設け、学習の理解が深まるよう工夫している。また、巻末に「思考の方法」一覧を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。</p> <p>【発問の具体例】</p> <p>○ 第2学年の「走れメロス」では、「対話的な学習」を促すために、「『天を仰いで、悔し泣きに泣き出した。』から『正直な男のままにして死なせてください。』までのメロスの心情の変化を捉えよう。また、その部分の語り方の特徴について、気づいたことを話し合おう」という発問と、「メロスはどのような人物か。メロスの性格を表す漢字二つの言葉を考え、理由とともに交流しよう。』という発問を示している。</p>	<p>○ 各教材のはじめに、「学びナビ」を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。また、教材の後に、対話的な学習活動を設け、学習の理解が深まるよう工夫している。</p> <p>【発問の具体例】</p> <p>○ 第2学年の「走れメロス」では、「対話的な学習」を促すために、「メロスが刑場に向かっていることの意味について、次の二つの表現を比較しながら考えを交流しよう。（このあと、二つの描写が掲載してある）」という発問と、「語り手の視点が、三人称→一人称→三人称と変化する点について、このように語り方がもたらす効果について話し合い、意見を交流しよう。」という発問を示している。</p>	<p>○ 教材の後に、対話的な学習活動を設け、学習の理解が深まるよう工夫している。また、巻末に「学習の方法」一覧を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。</p> <p>【発問の具体例】</p> <p>○ 第2学年の「走れメロス」では、「対話的な学習」を促すために、「②（場面の展開に即して人物像を読み取る）で読み深めたことや、次のような視点を参考に、自分が感じた作品の魅力を文章にまとめよう。そして、それを基にグループで語り合おう。」という発問を示すとともに、「魅力が語り合う視点」として、「登場人物の設定」、「人物像」など7つの観点を掲載している。</p>	

観点	観点3 内容の構成・配列・分量	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
視点	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量	<p>○ 「本編」、「基礎編」、「資料編」の3つで構成している。</p> <p>○ 各単元を「思いを捉える(物語)」、「分かりやすく伝える(説明的文章)」などのテーマにまとめてある。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配置している。</p> <p>また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。</p> <p>○ 広島に関連する教材として、「神」(読書への招待)を扱っている。</p>	<p>○ 本編、「読書の広場」、資料編の3つで構成している。</p> <p>○ 各単元を「分かりやすく伝える(説明的文章)」、「古典に学ぶ(古典)」などのテーマにまとめてある。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配置している。</p> <p>また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。</p> <p>○ 広島に関連する教材として、「壁に残された伝言」(報告)を扱っている。</p>	<p>○ 本編、「言葉と文法 解説編」、「言葉の自習室」、「漢字」の4つで構成している。</p> <p>○ 各単元を「表現/対話/思想」、「人権/多様性/平和」などのテーマにまとめ、SDGsと関連付けている。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配置している。</p> <p>また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。</p> <p>○ 広島に関連する教材として、「この世界の片隅に」(さまざまな広告を比べる、アニメーション映画の絵コンテの例)「風琴と魚の町」(裏見返し)、「薔薇のボタン」(読書への招待)、「語り継ぐもの」(読書)、「永遠のみどり」(読書)を扱っている。</p> <p>○ 第1学年 サイズ B 5判 重さ 約510g 第2学年 サイズ B 5判 重さ 約515g 第3学年 サイズ B 5判 重さ 約510g</p>	<p>○ 本編、「文法・漢字・振り返り」、「学習を広げる」の3つで構成している。</p> <p>○ 各単元を「心の動き(物語・小説)」、「新しい視点で(説明的文章)」などのテーマにまとめている。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配置している。</p> <p>また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。</p> <p>○ 広島に関連する教材として、「峠三吉 原爆詩集」(資料)を扱っている。</p> <p>○ 第1学年 サイズ B 5判 重さ 約510g 第2学年 サイズ B 5判 重さ 約510g 第3学年 サイズ B 5判 重さ 約510g</p>
視点	⑦ 学習を広げたり、補正したりする内容の記述の状況	<p>○ 巻末の「基礎編」は、「学びを支える言葉の力」、「文法解説」で構成している。また、「資料編」は、「読むこと」、「古典」、「話すこと・聞くこと/書くこと」、「言葉」で構成している。</p> <p>○ 「資料編」に、「本編」と「基礎編」を学習するときに参考となる教材や資料、言葉を掲載している。</p>	<p>○ 巻末の「資料編」は、「情報を活用する」、「古典芸能に親しむ」、「参考資料」で構成している。</p> <p>○ 「資料編」に、「本編」を学習するときに参考となる教材や資料、言葉を掲載している。</p>	<p>○ 巻末の「言葉の自習室」は、読書4作品と資料で構成している。</p> <p>○ 「言葉の自習室」に、「本編」を学習するときに参考となる教材や資料、言葉を掲載している。</p>	<p>○ 「学習を広げる」は、「読む」、「話す・聞く」、「書く」、「情報」、「読書」、「伝統的な言語文化」、「言葉・漢字」で構成している。</p> <p>○ 「学習を広げる」に、「本編」を学習するときに参考となる教材や資料、言葉を掲載している。</p>
視点	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方	<p>○ 他教科との関連がある教材には、教科関連マークを付し、関連する教科名を示している。</p> <p>○ 教材の後の「振り返り」に、「学んだことをこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかを書こう」、「学習を通してどんな力が身に付いたか、その力をこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかをまとめよう」などと示している。</p>	<p>○ 教材の後の「振り返り」に、「この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう」、「ここでの学習を、理科や社会科などのレポートに活用しよう」などと示している。</p>	<p>○ 各学年、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の教材では、「振り返り」に、「学びを生かそう」として、学習した内容を日常生活のどの場面で生かせるかを例示している。</p>	<p>○ 各学年、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の教材では、「つなぐ」として、「日常生活」、「学校生活」、「将来」の3つを示し、学習したことを、それぞれの場面で生かせるようにしている。</p>

観 点	視 点	三 省 堂	発 行 者	教育出版	光村図書出版
観 点 ④	④ 本文の記述・イラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方	<p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「古典」のイラストデザインを統一し、教材に付している。</p> <p>○ 各学年、文章と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図、新聞などである。</p> <p>○ 6人の生徒と案内役のキャラクターを登場させ、話し合いの例などを吹き出しで示している。</p> <p>○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、教材名のそばに「Dマーク」を付している。</p> <p>○ 巻頭・巻末のQRコードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツがご覧とすることができるようにしている。</p> <p>(第1学年：23箇所)</p>	<p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のイラストデザインを統一し、教材に付している。</p> <p>○ 各学年、文章と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図、新聞などである。</p> <p>○ 生徒、ロボット、葉っぱのキャラクターを登場させ、話し合いの例などを吹き出しで示している。</p> <p>○ 「読書の広場」と古典教材には、教材の終わりに、学習に関連する資料を掲載したウェブコンテンツを利用できるQRコードを付している。</p> <p>○ 各教材のQRコードから、ウェブコンテンツがご覧とすることができるようにしている。</p> <p>(第1学年：6箇所)</p>	<p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「メディアと表現」のイラストデザインを統一している。</p> <p>○ 各学年、文章と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図、新聞、漫画などである。</p> <p>○ 生徒と紫のキャラクターを登場させ、話し合いの例などを吹き出しで示している。</p> <p>○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、ページ番号の横に「まなびリンク」を付している。</p> <p>○ 巻頭のQRコードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツがご覧とされたページを利用できるようにしている。</p> <p>(第1学年：34箇所)</p>	<p>○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「情報」、「読書」のイラストデザインを統一している。</p> <p>○ 各学年、文章と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図、新聞などである。</p> <p>○ 生徒のキャラクターを登場させ、話し合いの例などを吹き出しで示している。</p> <p>○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、QRコードが示されている。</p> <p>○ 巻頭のQRコードまたは裏表紙のQRコードとサイトのアドレスからは、ウェブコンテンツがご覧とされたページを利用できるようにしている。</p> <p>(第1学年：16箇所)</p> <p>○ 各教材のQRコードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようにしている。</p>
観 点 ⑤	⑤ 社会生活に必要なとされる言語活動の種類と工夫	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：「食文化」のレポート、「写真」の意見文、「似ている言葉」スピーチ、グループディスカッション等</p> <p>第2学年：「地域の魅力」の紹介文、「地図」の意見文、プレゼンテーション、リンクマップによる話し合い等</p> <p>第3学年：「環境」の新聞、「ポスター」の批評文、条件スピーチ、合意形成を目指す話し合い、時を超える手紙等</p>	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：グランドスピーチ、行事業内リーフレット、随筆、スピーチ、行事業内リーフレット、意見文等</p> <p>第2学年：グループディスカッション、手紙・メール、短歌・俳句、プレゼンテーション、投稿文等</p> <p>第3学年：グループディスカッション、課題作文、批評文、パブリック・スピーキング、ポスター等</p>	<p>○ 巻頭「言葉の地図」に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：紹介、説明、質問、話し合い、報告、意見文、案内文、随筆、報告文、意見文等</p> <p>第2学年：説明、提案、質問、討論、投書、意見文、記事、物語、短歌等</p> <p>第3学年：説明、スピーチ、討論、説明文、批評文、PR文、作品集、俳句等</p>	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：わかりやすく説明する、好きなことをスピーチで紹介する、質問で話を引き出す、案内文を書く、資料を引用してレポートを書く、グループディスカッションをする等</p> <p>第2学年：職業ガイドを作る、資料を示してプレゼンテーションをする、質問で思いや考えを引き出す、意見文を書く、討論で多角的に検討する、鑑賞文を書く、「ある日の自分」の物語を書く等</p> <p>第3学年：スピーチで社会に思いを届ける、質問で相手の思いに迫る、説得力のある批評文を書く、課題解決のために会議を開く、グラフを基に小論文を書く等</p> <p>○ 巻末の「資料」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>第1学年：アンケート・原稿用紙の使い方・手紙の書き方</p> <p>第2学年：インタビュー・通信文</p> <p>第3学年：話し合いの方法</p>
観 点 ⑥	⑥ 社会生活に必要なとされる言語活動の種類と工夫	<p>○ 巻末の「資料編」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>全学年共通：「話すこと・書くこと」題材例、手紙の書き方・原稿用紙の使い方・掲載の観点</p> <p>第1学年：発想・整理の方法（カードによるグルーピング、ウェブペーキング、新聞の作り方）</p> <p>第2学年：発想・整理の方法（樹形図、段階軸法）、取材の仕方（インタビューの仕方、アンケートのとり方）</p> <p>第3学年：話し合いの方法（ダイアログ、パネルディスカッション）</p>	<p>○ 巻末の「資料編」、「社会生活に生かす」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>全学年共通：メモを活用する（忘れないためのメモ、何かを生み出すためのメモ）・話し合いの形式を選ぶ（グループディスカッション、ダイアログ、パネルディスカッション、ワールドカフェ）・辞典を活用する・手紙・はがき・メールの書き方・原稿用紙の使い方・掲載の仕方</p>	<p>○ 巻末の「言葉の自習室」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>第1学年：マッピングについて、原稿用紙の使い方</p> <p>第2学年：レポートの書き方</p> <p>第3学年：模擬面接</p>	<p>○ 巻末の「資料」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>第1学年：アンケート・原稿用紙の使い方・手紙の書き方</p> <p>第2学年：インタビュー・通信文</p> <p>第3学年：話し合いの方法</p>

教科〔国語〕種目〔書写〕

令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [国語] 種 目 [書写]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館や美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、筆の生産量が全国一である安芸郡熊野町と隣接しており、書写や書道を身近に感じることができる地域でもある。
- 本市の生徒の実態として、授業において硬筆や毛筆を用いて、字体や筆順に注意して丁寧に書くこととする意識や態度は見られるが、文字表現の多様化により、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができている生徒が多いことが課題である。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	<ul style="list-style-type: none"> ① 姿勢・執筆法・用具の扱いの示し方 ② 伝統と言語文化に関する内容の記述
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	<ul style="list-style-type: none"> ③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返りにつなげたりするための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	<ul style="list-style-type: none"> ④ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑤ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
＜言語活動の充実＞	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教科 [国語] 種 目 [書写]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	発行者			
	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
① 視 点 ② 視 点 ③ 視 点	<p>○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「文字を整えて書くための姿勢(毛筆・硬筆)」「用具の名前・置き方」「墨のすり方」「書きやすい鉛筆の持ち方」「書きやすい筆の持ち方」「片付け方」を写真とイラストで示している。</p> <p>○ 文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。</p> <p>○ 古典作品については、「いろは歌」「竹取物語」「平家物語」「おくのほそ道」を扱っている。</p>	<p>○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「姿勢と構え方(毛筆・硬筆)」「大筆の持ち方」「小筆の持ち方・構え方」「筆の運び方」「用具の扱い方(用具の準備、墨のすり方、用具の片付け方)」「鉛筆の持ち方」を写真で示している。</p> <p>○ 文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。</p> <p>○ 古典作品については、「いろは歌」「竹取物語」「枕草子」、俳句を扱っている。</p>	<p>○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「基本の姿勢」「用具の置き方」「毛筆の持ち方(大筆・小筆)」「硬筆の持ち方(鉛筆・ボールペン)」「墨のすり方」「後片づけ」を写真で示している。</p> <p>○ 文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。</p> <p>○ 古典作品については、「いろは歌」「竹取物語」「枕草子」「平家物語」「おくのほそ道」「論語」「短歌・俳句」を扱っている。</p>	<p>○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「書くときの姿勢」「用具の準備(用具の名前)」「筆記具の持ち方(大筆・小筆・鉛筆)」「用具の片付け方」「墨のすり方、鉛筆の持ち方を写真で示している。</p> <p>○ 文字の変遷、墨・硯・紙・筆の伝統的な作り方を写真で紹介している。</p> <p>○ 古典作品については、「いろは歌」「枕草子」「源氏物語」「短歌・俳句」を扱っている。</p>
④ 視 点	<p>○ 巻頭の「書写の学習の進め方」に、教科書の使い方が示されている。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「とん・すう・びた・ぐっ・すっ」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、漫画を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ コラム「文字のいずみ」を設け、「伝統的な用具・用材」「手書き文字と活字」「仕事の中の手書き文字」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返って話そう」では、学習したことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「この教科書で学ぶ皆さんへ」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。</p> <p>○ 行書の導入部では、行書と楷書を比較できる教材を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「学びを広げる」を設け、活字と手書き文字の違いや、文字の変遷について紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「確かめよう」「見つけよう・考えよう」「学習を振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、写真と解説を多く掲載し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「季節の行事と書写」「日本建築と書」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、「速さを比べてみよう」を設け、速さを比べて書くことで、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「文字の歴史を探る」「UD書体ってなんだろう」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返る」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p> <p>○ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようになっている。</p>
⑤ 視 点	<p>○ 巻頭の「書写の学習の進め方」に、教科書の使い方が示されている。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「とん・すう・びた・ぐっ・すっ」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、漫画を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ コラム「文字のいずみ」を設け、「伝統的な用具・用材」「手書き文字と活字」「仕事の中の手書き文字」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返って話そう」では、学習したことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「この教科書で学ぶ皆さんへ」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。</p> <p>○ 行書の導入部では、行書と楷書を比較できる教材を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「学びを広げる」を設け、活字と手書き文字の違いや、文字の変遷について紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「確かめよう」「見つけよう・考えよう」「学習を振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、写真と解説を多く掲載し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「季節の行事と書写」「日本建築と書」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、「速さを比べてみよう」を設け、速さを比べて書くことで、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「文字の歴史を探る」「UD書体ってなんだろう」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返る」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p> <p>○ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようになっている。</p>
⑥ 視 点	<p>○ 巻頭の「書写の学習の進め方」に、教科書の使い方が示されている。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「とん・すう・びた・ぐっ・すっ」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、漫画を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ コラム「文字のいずみ」を設け、「伝統的な用具・用材」「手書き文字と活字」「仕事の中の手書き文字」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返って話そう」では、学習したことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「この教科書で学ぶ皆さんへ」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。</p> <p>○ 行書の導入部では、行書と楷書を比較できる教材を配置し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「学びを広げる」を設け、活字と手書き文字の違いや、文字の変遷について紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「確かめよう」「見つけよう・考えよう」「学習を振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、写真と解説を多く掲載し、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「季節の行事と書写」「日本建築と書」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p>	<p>○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。</p> <p>○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。</p> <p>○ 行書の導入部では、「速さを比べてみよう」を設け、速さを比べて書くことで、行書の特徴や利点について示している。</p> <p>○ 「コラム」を設け、「文字の歴史を探る」「UD書体ってなんだろう」などを紹介し、身の回りにおける文字について興味・関心を持たせている。</p> <p>○ 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返る」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。</p> <p>○ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようになっている。</p>

発行 者		三 省 堂	教 育 出 版	光 村 図 書 出 版
視 点	④ 単 元 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 毛筆教材を、3年間で19教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年3教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「暑き日を海に入れたり最上川」、「名月」、「元氣」、「探究」、「日進月歩」、「輝く生命」である。 ○ 広島に関する教材として、「四十七都道府県名」を扱っている。 ○ サイズ B5判より2.7cm横長 重さ 約260g ○ 「書の古典」に、「発展 学びを広げる」として、高等学校で学習する王羲之、光明皇后の書を掲載している。	○ 毛筆教材を、3年間で24教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年8教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「大」、「大木」、「栄光」、「平和」、「新たな決意」、「世界遺産」である。 ○ 広島に関する教材として、「龍野筆」、「広島城の碑」、「都道府県名一覧」を扱っている。 ○ サイズ B5判より2.7cm横長 重さ 約305g ○ 「コラム」に、「発展 高等学校書道I」として、高等学校で学習する虞世南、歐陽詢、褚遂良、顔真卿らの書を掲載している。	○ 毛筆教材を、3年間で30教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年14教材、第2学年11教材、第3学年5教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「春風」、「いろは歌(仮名)」、「夏の夜やざれちぎれの天の川」、「一」、「二」、「口」、「大」、「大木」、「北西」、「月光」、「不言実行」、「文武両道」、「将来の夢」である。 ○ 広島に関する教材として、「伊都岐島(厳島)神社」、「はがきの表書き」、「都道府県行書一覧」、「志望理由書」を扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 約295g ○ 裏見返しに、「発展」として、高等学校で学習する王羲之の書を紹介している。
視 点	⑤ 発 展 的 な 学 習 に 関 連 する 内 容 の 記 述 の 状 況	○ 他教科と関連がある教材には、教科関連マークを付し、関連の教科名を示している。 ○ 日常生活との関連の示し方については、「生かそう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くようにしている。 ○ 単元の終わりに、「生活に広げよう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。	○ 日常生活との関連の示し方については、教材の後に「まとめ書きと応用」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 各学年に、「学習を生かして書く」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。	○ 国語科と関連がある教材には、教材に「国語」と示している。 ○ 日常生活との関連の示し方については、教材の後に「生かそう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 各学年に、「学校生活」、「日常生活」などを設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。
視 点	⑥ 他 教 科 や 日 常 生 活 と の 関 連 の 示 し 方	○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。 ○ 毛筆教材では、見開きの左ページの側注に、「書き方のかぎ」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 生徒、鉛筆、毛筆のキャラクターを登場させ、学習する内容で気を付けることを吹き出しで示している。 ○ 学習に関連する映像や資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、QRコードを付している。	○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。 ○ 毛筆教材では、見開きの右ページの下に「学習の窓」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ おじいさんのキャラクターと2人の生徒を登場させ、学習する内容で気を付けることを吹き出しで示している。 ○ 学習に関連する映像や資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「まなびリンク」を付している。	○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。 ○ 毛筆教材では、見開きの右ページの下に「学習の窓」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 2人の生徒、筆と硯のキャラクターを登場させ、学習する内容で気を付けることを吹き出しで示している。 ○ 学習に関連する映像や資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、QRコードを付している。
視 点	⑦ 本 文 の 記 述 ・ 内 容 を 通 じ 特 長 を 示 し た イ ラ ス ト ・ 写 真 ・ ウ ェ ブ コ ン テ ン ツ の 示 し 方	○ 各教材のQRコードまたはアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるものがある。(3箇所) (第1学年：10箇所、第2学年：8箇所、第3学年：5箇所、資料編：4箇所)	○ 各教材のQRコードまたはアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるものがある。(第1学年：7箇所、第2学年：5箇所、第3学年：3箇所、資料編：1箇所)	○ 各教材のQRコードまたはアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるものがある。(第1学年：15箇所、第2学年：10箇所、第3学年：7箇所、資料編：10箇所)
観 点	観 点 3 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	観 点 4 内 容 の 表 記 ・ 表 現	観 点 5 内 容 の 表 記 ・ 表 現	観 点 6 内 容 の 表 記 ・ 表 現

発行 者

観点	三省堂	教育出版	光村図書出版
⑧ 文字の大きさや配色等の工夫	<p>○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと、同等のサイズにしている。</p> <p>○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを採用している。</p> <p>○ 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。</p> <p>○ 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景の色を統一している。 (第1学年：赤、第2学年：緑、第3学年：青)</p>	<p>○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと、同等のサイズにしている。</p> <p>○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを採用している。</p> <p>○ 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。</p> <p>○ 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで、見出しの背景の色を統一している。 (第1学年：赤、第2学年：緑、第3学年：青)</p>	<p>○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと、同等のサイズにしている。</p> <p>○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを採用している。</p> <p>○ 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。</p> <p>○ 本編と「やってみよう」などのページでは、ページの配色を統一している。</p>
⑨ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫	<p>○ 「生活に広げよう」に、案内の手紙、年賀状、本のポップ、防災訓練におけるポスター、案内表示などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。</p> <p>○ 巻頭に、「手紙を書く」、「ポスターを書く」、「メモをとる」など、書写で学んだことが役立つ場面を例示している。</p> <p>○ 巻末の「さまざまな書式」に、手紙・新聞・リーフレット・ポスター・フリップ・レポート・原稿用紙・入学願書・送り状・往復はがき・のし袋・簡潔な手紙・電子メールの書き方について、イラストや写真を示している。</p>	<p>○ 「学習を生かして書く」や「学校生活に生かして書く」に、本の帯やポップ作り、ポスターセッション、新聞などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。</p> <p>○ 巻頭に、レポート、手紙、掲示物など、書写で学んだことが役立つ場面を例示している。</p> <p>○ 巻末の「書式の教室」に、手紙・一筆箋・封筒・年賀状・はがき・往復はがき・包み紙・エアメール・原稿用紙・小包伝票・願書・志願理由書の書き方について、イラストや写真で示している。</p>	<p>○ 「やってみよう」、「国語」、「学校生活」、「日常生活」に、学級スローガン、個人目標、本の帯、立て看板、応援旗、ノート、メモ、一筆箋、壁新聞、テレビ番組のタイトルデザイン、冊子、年賀状の書き方などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。</p> <p>○ 巻末の「日常に役立つ書式」に、手紙(縦書き)・手紙(横書き)・宛名・封筒・メール・はがき・往復はがき・願書・原稿用紙・送り状の書き方について、イラストや写真で示している。</p> <p>○ 第3学年では、学習の参考として、「私の好きな言葉」に、スポーツ選手や漫画家の直筆の書に掲載している。</p>

